

令和5年度 愛媛伊予モラロジー事務所 社会貢献事業

# 第10回 「家族のきずなエッセイ」 入賞作品集



授賞式：令和5年11月25日（土）14：00～15：15

伊予市生涯学習センター第1研修室（伊予市湊町206-9）

主催：愛媛伊予モラロジー事務所

後援：伊予市・松前町・伊予市教育委員会・松前町教育委員会

協力校：伊予市立郡中小学校・伊予小学校・中山小学校

南山崎小学校・佐礼谷小学校・翠小学校

伊予中学校・港南中学校・双海中学校

松前町立北伊予小学校・松前小学校・岡田小学校

松前中学校・岡田中学校・北伊予中学校

## ご 挨拶

この度、愛媛伊予モラロジー事務所では、社会の道徳化に貢献するため、昨年が続いて第10回「家族のきずなエッセイ」の募集をいたしましたところ、伊予市、松前町の小学校（3年生以上）、中学校の児童生徒の皆様から580編のご応募をいただきました。誠にありがとうございました。本冊子「家族のきずなエッセイ作品集」には、その中から選ばれた入賞作品（特別賞6編、優秀賞22編）あわせて28編の作品を掲載しています。

今回のエッセイ募集には、伊予市、松前町の行政、教育委員会をはじめ、小学校、中学校の校長先生や諸先生方、並びに保護者の皆様方のご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。また、選考委員長としてご尽力を賜りました前郡中学校長 紺田順一先生、ならびに選考委員の前港南中学校長 松浦博文先生、元伊予教育会会長 井手窪理様に厚く御礼申し上げます。

私たちは、家族・親・祖先とのきずなを感じるとき、生きる力と喜びを得ることができます。本冊子に掲載された心温まる作品を一人でも多くの方にお読みいただくことで、心と心がしっかりと結ばれた家庭・地域社会づくりに多少なりとも貢献できますならば、誠に幸いに存じます。今回、私たちに深い感動を与えて下さった入賞者の皆様にご心から感謝を申し上げます。ご挨拶といたします。

令和5年11月吉日

愛媛伊予モラロジー事務所

代表世話人 國西 俊孝

## 講 評

愛媛伊予モラロジー事務所主催の第10回「家族のきずなエッセイ」の募集に、伊予市・松前町の小学校から9校195編、中学校から6校385編、計580編の応募がありました。昨年度の353編を大きく上回る応募に、関係者一同感謝の気持ちで一杯です。ご協力いただいた各学校の校長先生をはじめとする先生方、児童生徒の皆さん、保護者の皆さんに改めてお礼申し上げます。

さて、今回も応募された作品には、子どもたちの家族に対する思いが素直な言葉で表現されており、どの作品も素晴らしい内容でした。全ての作品を入選にしたいところですが、賞の数に限りがありますので、次の四つの視点で選考させていただきました。

- (1) 家庭生活の中で家族の大切さやありがたさを確認する作品
- (2) 内容が実体験を基にしている作品
- (3) 内容が具体的で、実践への意欲が表れている作品
- (4) 今後の生活に、生きる力と喜びが感じられる作品

以上の視点で選考した結果、この作品集に掲載する特別賞6編、優秀賞22編を決定いたしました。ご一読いただいたら分かるように、どの作品も家族の大切さやありがたさが実体験に基づいて具体的に書かれており、今後の自分の生き方がしっかりと示されています。日常生活の中では、子どもたちは恥ずかしさから家族に対して自分の思いを言葉で伝えられていないかもしれません。しかし、心の中ではしっかりと家族に対して感謝の気持ちをもっています。また、大人が想像している以上に、子どもたちは家族のきずなを感じていると思います。この作品集が、今後の家族のきずなをより一層深めるための一助になれば幸いです。

最後になりますが、作品を応募していただいた児童生徒の皆さんやご協力いただいた学校の先生方、保護者の皆さん、そして、本エッセイ募集の企画・運営にご尽力いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます、講評といたします。

選考委員長  
前郡中小学校長  
紺田 順一

# 令和5年度 第10回「家族のきずなエッセイ」入賞作品

特 別 賞	* 伊予市長賞	竹内 志織	伊予小学校	6年	「私が生きて行く中で」・・・4
	* 松前町長賞	萩岡 春斗	松前中学校	1年	「会話のラリーは続いていく」・・・5
	* 伊予市教育長賞	門田 百花	港南中学校	3年	「家族の存在」・・・6
	* 松前町教育長賞	玉井 紗衣	北伊予中学校	1年	「わたしのばあば」・・・7
	* モラロジー道徳教育財団賞	森下 菜羽	南山崎小学校	6年	「家族の宝物」・・・8
	* 愛媛県モラロジー協議会賞	亀崎 結愛	中山小学校	4年	「自然にかこまれた家族」・・・9

優 秀 賞 (小 学 校)	河本 湊斗	郡中小学校	4年	「お母さんありがとう」・・・10
	伊藤 月祈	岡田小学校	5年	「言葉はぼう力」・・・11
	佐伯 羽音	松前小学校	5年	「家族との大事な毎日」・・・12
	宮下 咲美	郡中小学校	5年	「ちょうせんする大切さ」・・・13
	長谷部公佳	北伊予小学校	5年	「心にひびいた家族の言葉」・・・14
	高石菜々美	北伊予小学校	5年	「いつでも助けてくれるお母さん」・・・15
	片下 瑠莉	北伊予小学校	5年	「わすれられない家族の言葉」・・・16
	酒井実結花	北伊予小学校	5年	「私が「愛されているんだな」と思った時」・・・17
	仲島里乃妃	伊予小学校	6年	「命をつなぐ」・・・18
	森元 愛子	郡中小学校	6年	「私のお父さん」・・・19
	伊藤 希	翠小学校	6年	「私の弟」・・・20
	城山 信	佐礼谷小学校	6年	「おじいちゃん、おばあちゃんへの感しゃ」・・・21
福田 晃	松前小学校	6年	「天国に行ったおじいちゃん」・・・22	

優 秀 賞 (中 学 校)	岡井 絢音	港南中学校	1年	「本当の気持ち」・・・23
	田中 綺	伊予中学校	1年	「家族で過ごす正月」・・・24
	池内 結	伊予中学校	2年	「口では言えないけど…」・・・25
	小笠原彩椋	松前中学校	2年	「家族の支え」・・・26
	大西 悠生	岡田中学校	2年	「私の家族」・・・27
	兵頭 楽飛	松前中学校	3年	「家族の大切さ」・・・28
	濱田 真稟	双海中学校	3年	「自慢の母と祖母」・・・29
	岡 蒼汰	港南中学校	2年	「家族の皆へ恩返し」・・・30
兵藤 陸生	北伊予中学校	2年	「僕にまた一つの宝物ができた」・・・31	

## 伊予市長賞

# 私が生きていく中で

伊予小学校 6年 たけうち 竹内 しおり 志織 さん

私は、家族がいたら、どんなことでも乗りえられると思います。だから、家族は、一生を生きていく中で、一番大切な存在だと思います。私は今、11才です。これまで生きてこれたのは、両親のおかげです。毎日三食栄養たっぷりのご飯を作ってくれたり、私のなやみを聞いてくれたりします。普段、あたり前のように生きていますが、改めてふり返ると、「自分の力だけでは生きてはいけない」ということに気付きました。また、家族は私を支えてくれるだけでなく、夢をたくさんあたえてくれています。両親は、医りょうに関係する仕事に勤めています。両親の働く姿を見て、人を助けるということに憧れを持ちました。なので、私は将来、医者になることに決めました。しかし、両親が、医りょう関係の仕事に勤めていなければ、医者になるという志にはなっていなかったと思います。だから、親の言動や行動によって、子どもの夢や行いは、大きく変わってくることを実感しました。そして、私がこれからがんばりたいことは、「責任を持って行動する」ということです。日ごろから、自分で目標を立て、責任を持って最後まで全力でやりとげるということを意識していきます。

## 松前町長賞

# 会話のラリーは続いていく

松前中学校 1年 はぎおか はると  
菫岡 春斗 さん

ボールがはじかれる音が心地いい。卓球を始めた頃の頃は、その音は一回、二回で消えていたが、今では何十回と消えることなく軽やかに鳴り響く。

僕はこの春から中学生になり、卓球部に入部した。僕は強くなるために、部活だけではなく帰宅後や休日を使ってお父さんと練習に励んだ。お父さんも経験者ではないので決して上手なわけではないが、一生懸命教えてくれるので、僕もそれに応えられるように力一杯練習した。そして練習を重ねるごとにラリーが徐々に続くようになってきて気付いたことがある。ラリーが続くのは、僕が上手になったことはもちろんだが、お父さんが僕の打ち返しやすい場所に打ってきてくれたのだ。「ほら、打っておいで」「おお！いい返しだ！」そんな声がボールのはじかれる音から聞こえてくるようだった。お父さんはラリーを通じて会話を楽しんでいるかのようになり、練習に付き合ってくれた。その成果が現れ、僕は仲間の中でも負けにくいくらい強くなった。

「ほら、僕もうまくなったでしょ」「もっとうまくなろうな」今ではラリーを通じてたくさんの会話が続くようになった。これからも僕らの声は途絶えること無く続いていく。

# 伊予市教育長賞

## 家族の存在

港南中学校 3年 かどた ももか  
門田 百花 さん

私の家族は誰一人かけてはならないものだ。旅行などで誰かがいなくなったときやっぱりものたりない。みなそれぞれの特徴あつての家族だ。例えば、お母さんがいなくなるとまとめ役がいなくて、家事を毎日こなしているからこそいろんなことを聞いたりできる。いないとなると私は料理ができないし、お父さんはできるけどお母さんの家事の仕方はわからない。だからお母さんはとっても大切なのである。お父さんがいなくなるとなごませしてくる人がいない。お母さんと言ひ合ひやけんかをしたときなごませしてくるのはお父さんだ。そのやさしさで包んでくれるしお母さんの話し相手にもなっている。おもしろいことをいっしょにやってくれるし、部活は同じスポーツをやっているからとても頼れるのである。弟がいなくなると明るさがなくなる。ちょっとしたことで笑い、猫やしば犬を見ると「かわいい！」と叫び出す。そこがとってもかわいいのである。くやしいけれどそこが弟のとてもいいところだと思っている。このようにみんながいるからこの家族はなり立っているのだと思う。ちなみに私がいるととても明るく楽しいと母から言われた。「笑う門田に福来たる」それが私のモットーだ。

## 松前町教育長賞

# わたしのばあば

北伊予中学校 1年 たまい さえ  
玉井 紗衣 さん

私のおばあちゃんは、私が小学1年生のときに亡くなりました。今年で七回忌を迎えます。私は、おばあちゃんのことをいつも「ばあば」と呼んでいました。ばあばは、優しい人でした。ばあばとは6年間という短い年月しか一緒に過ごせなかったけれど、思い出はたくさんあります。一緒にお花見をしたり、菜の花畑へ行ったりしました。いつもテレビや雑誌で私の好きそうな遊び場を見付けては、連れて行ってくれたり、私が病気になったら果物やお菓子を持って駆けつけてくれたりするなど、私のために尽くしてくれていた笑顔のばあば。その中でも一番心に残っていることは、家でお泊りしたことです。寝るときに、たくさんお話をしてくれました。お星さまの話、動物の話、人体の話まで。私は夢中になって聞いていました。朝ごはんは一緒にホットケーキを作りました。これからも、ずっとばあばといっしょ。そう思っていたのに、ばあばは入院しました。きっと辛かっただろうけど、ばあばはいつも笑っていました。私はそんな明るいばあばが大好きでした。なので、ばあばが亡くなったとき、沢山泣きました。でも、夢の中のばあばはいつも笑っています。心の中でいつも思っています。ばあば、ありがとう！

# モラロジー道徳教育財団賞

## 家族の宝物

南山崎小学校 6年 もりした なのは  
森下 菜羽 さん

私の家には宝物があります。それは去年来た猫の「れんくん」です。れんくんは、私たち家族に今まで以上の明るさと仲の良さを届けてくれました。

私たち家族はとても仲の良い明るい家庭です。でもたまに意見が合わなくて、空気がギスギスしたりけんかをしたりしてしまう事がありました。いつも仲が良い分、少しのけんかや空気の悪さは私たちにとって辛いことでした。

そんな時、突然れんくんがやってきました。れんくんは家の駐車場にちょこんと座っていました。元々動物は苦手だった私たちですが、れんくんの可愛さに魅了されて家猫にすることを決めました。れんくんのお世話をみんなでしたり、れんくんの写真を撮りあったりしていくうちに、家族が前よりも断然仲よくなっていることに私は気付きました。

それからの毎日はというと、前よりも息の合うようになった5人と1匹で苦手なことにも挑戦し、楽しい毎日を過ごしています。私たち家族に今まで以上の明るさと仲の良さをくれたのは、あの日突然やってきた宝物「れんくん」です。これからも家族6人、力を合わせてどんなことも乗り越えていきます。

## 愛媛県モロロジー協議会賞

# 自然にかこまれた家族

中山小学校 4年 かめざき 亀崎 ゆあ 結愛 さん

わたしの家は、たくさんの自然にかこまれた所にあります。朝目ざめると、野鳥の鳴き声が聞こえ、周りを見わたすと住んでいる町が見えて、雲海が広がっていることもあります。こんなすてきな所に生まれ育った大好きな家族です。わたしの大好きなおじいちゃんは、2年前に病気で亡くなってしまいました。おじいちゃんは、生き物を大切にし、メダカを育てたり、ヤマガラにえさをあげたりしていました。今でも、おじいちゃんと仲よくなったヤマガラが飛んできて、わたしの手のひらにとまってエサを食べてくれることがあります。そんなおじいちゃんとすごした時間は、私のたから物です。

わたしはおじいちゃんと同じで、生き物が大好きです。今は、ハムスターを飼っています。朝起きたら、ハムスターに話しかけてから学校に行きます。夜は、えさをあげたり、一緒に遊んだりします。ハムスターやヤマガラなど、色々な生き物とすごしていると、とてもやさしい気分になります。お父さんとお母さんは、「その気持ちを、いつまでも大切にしていね」と言います。わたしは、家族や友達、生き物に、いつもやさしい気持ちをわすれず、毎日元気に成長していきたいと思います。

## 優 秀 賞

# お母さんありがとう

郡中小学校 4年 かわもと 河本 みなと 湊斗 さん

ぼくの夢は、サッカー選手になることです。そのためには、サッカーの練習も大切ですが、けんこうでいることもとても大事です。サッカーは、ずっと走り続ける体力が必要で、体がぶつかってもぶれない強さも必要です。だから、ぼくは、けんこうでいるために、毎日の食事にとっても気を付けています。……と言っても、以前はこうではありませんでした。お菓子もたくさん食べていたし、夜ふかしもしていました。特にひどかったのは、朝ご飯をぬいてしまうことがあったことです。サッカーの練習中、体力がもたず、イライラして友達にあたってしまうこともありました。そんなときに、母が「ご飯をしっかり食べてきちんとねなさい。」と言っていたことを思い出しました。けんこう的な生活をして、体の調子を整えることが、サッカーの練習にとっても大事なことなのだと気付いたのです。すぐに生活を変えるのは大変でしたが、母がいつもサポートしてくれました。ぼくの体づくりのために栄養を考えてご飯を作ってくれたり、生活リズムがくずれないように声をかけてくれたり。ぼくは、これからもけんこうな生活を意しきして、じょうぶな体を作り、強いサッカー選手になって、母に恩返しをしたいです。

## 優 秀 賞

# 言葉はぼう力

岡田小学校 5年 いとう つき 伊藤 月祈 さん

わたしはある日、弟とけんかしていました。けんかは、はげしくなって、バカや、死ねなどの言葉になってきていました。すると、それを見ていたお母さんが、うら紙をとり出して、くしゃくしゃにして、

「こうすると、紙にあとがつくでしょ。それでも、どんなに紙をまっすぐ、ピンとのぼしてととのえても、あとは残るでしょ。それと同じで、人も、きずつくと、なおっても、心にきずが残るの。だから、バカなどの自分も言われていやなことは人にぜったいに言ってはいけないんだよ」

それを聞いて、本当にそうだな、もう言わないでおこうと思いました。わたしと弟がしいんとしていると、お母さんが、

「でも2人ともすごいんだよ。心のお皿が広いんだから。最初は全然おこってなかったでしょ。すぐおこるおじさんとかいたりするけど、2人は、最初からおこってなかったから、やさしいしょうこよ」

とやさしく言ってくれました。あの時、お母さんがとめてくれなかったら、わたしは手を出していたかもしれません。わたしは今でも、悪い言葉が出てこないように注意しています。言葉をくれたお母さんにかん謝しています。

## 優 秀 賞

# 家族との大事な毎日

松前小学校 5年 さいき 佐伯 はのん 羽音 さん

わたしは、家族のみんながいてくれたから、大事な毎日が続いていると思いました。わたしは、朝、家族全員に、

「おはよう」

と言って、大事な一日がスタートできるように、あいさつをしました。そして、学校に行く前も、たくさんあいさつをして大事な毎日のはじまりです。わたしが十年間生きてきて家族と、大事な一歩もふみ出せました。わたしがはじめて三年生のときにできた「二重とび」は、何度も練習をし、家族にささえてもらいながら、やっとできるようになりました。ほめてもらうのがうれしくなり、「はやぶさ」もできるようになりました。わたしは絵を書くこともとってもとくいです。とくにそうぞうすることが大好きです。そんなとき、お父さんがこう言ってくれました。「技術は学ぶことができ、発想は学べることができない。発想力があると技術はついてきてくれる。未来、仕事でも活やくできるよ」といってくれて心がドクッと動きました。わたしは家族って、わたしたちを支えてくれる大切な宝物だということを改めて思いました。次は、わたしが家族みんなを支えていけるように、家族の一員としてがんばりたいです。

## 優 秀 賞

# 挑戦する大切さ

郡中小学校 5年 みやした えみ 宮下 咲美 さん

わたしが、家族に言われて心に残った言葉は、「何でも挑戦してみたら」です。

わたしは、もともと人前に出るのがきらいでしたが、この言葉で一回挑戦してみようと心にメリハリをつけてやってみたら、とてもいきいきとした気持ちになって、とても気持ちよかったと今でも覚えています。

それからわたしは、いろいろな事に挑戦して、今では、放送委員にまでなりました。

今の自分は、過去の自分からは考えられないくらいにまで成長しました。今は、金管バンドもやっていてたくさんのご事に挑戦しています。

この今の自分があるのは、お母さんとお父さんがせなかをおしてくれたからだと思います。まちがえることをおそれずに挑戦することがどれだけいい事かよく分かりました。これからもたくさんのご事に挑戦していきたいと改めて思いました。

改めて、このきずなエッセイを通して挑戦することがとてもいい事だと思いました。

## 優 秀 賞

# 心にひびいた家族の言葉

北伊予小学校 5年 は せ べ 長谷部 き み か 公佳 さん

私が心にひびいた家族の言葉は  
「どんなにかべにぶつかってもこわれないものは、こわれない。  
さけていくのも一つの手なんだよ。」  
と、私をなぐさめてくれた言葉です。

私はその時、明日の習い事を休みたいと思いました。なぜなら、全部やめないと決めたけど意外としんどくて無理だったからです。なので相談しました。

お母さんに相談するといつも気が楽になってすごく気分がいいです。いつも相談する相手は、お母さんです。お母さんは、私の気持ちや思っていることがすぐ分かるので相談しやすいからです。大人になっても相談したいです。お母さんの子どもになってよかったと思います。お母さんの心が強いおかげで、自分も強くなります。そして、今までお母さんに教えてもらったことをこのしょうがいの中で工夫しながら生かして、どれだけお母さんに感謝しながら生きられるか、少しでも先の事も考えながら、これからもお母さんの子どもでいたいです。

次は、私の番です。自分がお母さんに教えてもらったことを自分の子どもに教え、いつかお母さんをこえる人になりたいです。

## 優 秀 賞

# いつでも助けてくれるお母さん

北伊予小学校 5年 たかいし 高石 ななみ 菜々美 さん

私の家族は4人で住んでいます。お父さん、お母さん、私、弟の4人です。お父さんは、たんしんふにんで、今は東京に住んでいます。たまに帰ってくるので、それまでは、お母さんと弟とがんばっています。お母さんは大人1人だけなので、一日中とても大変そうです。しかも、仕事もしているので、つかれているようにも見えました。

それでも、私のお母さんは、宿題のドリルやむずかしい計算問題など、私がわからない問題があったら、必ず教えてくれます。家事のまっさい中でも、ごはんを作っているときだって教えてくれます。それに、とてもていねいで、くわしい説明も教えてくれます。だけど、私がテストで1問ミスをしてしまったり、4問まちがいで悪い点数をとってしまったりしたときだって、お母さんは、

「大丈夫。次はきっとできるよ。」

と言ってくれたり、

「苦手なところは、文章問題だね。」

と私の苦手なところまで教えてくれます。

私がわからないところがあったら、家事をしているときでも教えてくれるお母さんのために、たくさんお手伝いをして、笑顔がふえる家にしたいです。

## 優 秀 賞

# わすれられない家族の言葉

北伊予小学校 5年 かたした るり  
片下 瑠莉 さん

私のわすれられない家族の言葉は、習いごとでの試合のことです。

私は、空手を習っています。練習のとき、先ぱいにアドバイスをもらいました。

「あなたは、前げりが上手だから勝負のときにたくさんした方がいいよ。」

とっていました。試合まであと少しなので、がんばって練習しました。

ついに当日、私の頭の中は、

「試合に勝てたらいいな。」

という気持ちでいっぱいでした。

「強い人がいたらどうしよう。」

とも思いました。先ぱいからのアドバイスを生かして、試合をがんばりました。

結果はじゅんゆう勝でした。最後だけ負けてしまい、すごいちゅうと半ばでくやしかったです。そのとき、お父さんやお母さんが「大丈夫、じゅんゆう勝だったら、次はゆう勝目指してがんばればいいんだよ。」という言葉がわすれられない言葉になりました。

たくさん練習して次はゆう勝できるようがんばりたいです。

## 優 秀 賞

# 私が「愛されているんだな」と思った時

北伊予小学校 5年 さかい みゆか  
酒井 実結花 さん

私が自分が愛されているんだなと感じたのは、お父さんの言葉がきっかけです。

ある日、私がお父さんに自分がかいた絵をわたすと、「日付を書いておいて。」とたのまれました。言う通りにすると、「ありがとう。」

と言って、お父さんの部屋に行ってしまいました。

お父さんの部屋にいるお父さんをのぞくと、なんと、そこに見えたのは、お父さんが私がかいた絵を「宝物箱」に入れていたのです。この時に、

「私は家族に愛されているんだな。」と改めて思いました。

この時だけではなく、お母さんに「うちの子は世界一かわいいな。」といわれるのもうれしいです。

私は、「家族がいたら幸せ」をモットーとして、生活しています。

家族に愛されていて、私は世界一の幸せ者です。

これからも、家族を守っていきたいと思います。

# 優 秀 賞

## 命をつなぐ

伊予小学校 6年 なかじま 仲島 りのき 里乃妃 さん

今年6月、私は広島県へ修学旅行に行きました。78年前の原爆投下の地です。事前に戦争の事も学んで行きましたが、資料館で目にした物は想像をはるかにこえたとても言葉にできない物でした。

昭和20年8月6日。この日は私達家族にとって絶対忘れてはいけない日です。今、私が生きていられるのもこの日の出来事が大きく関わっているからです。当時、曾祖父母と祖父の3人は広島南観音に住んでいました。6日の朝、砂糖の配給を受けるために、曾祖母は生後7ヶ月の祖父を背負いバス停へと向かいました。途中祖父がねてしまったため、曾祖母は社宅へと引き返しました。玄関戸を引き、上り間の障子を開けた側に祖父をねかしたしゅん間、せん光が走りものすごい爆風に吹き飛ばされました。原爆が投下されたのです。

あのまま市内へ配給を受けに行っていたら影も形も残っていません。曾祖母の判断が運命を変えたのです。現在曾祖父母は他界しましたが、曾祖母が守ってくれた祖父の命は、3世代16人の命とつながっています。そして12月にはまた新しい命がたん生します。私も大人になって家族を持つ時にこの話が語れるように命をつないでいきたいと思います。

## 優 秀 賞

# 私のお父さん

郡中小学校 6年 もりもと 森元 あいこ 愛子 さん

私のお父さんは、私が3才になる5日前に天国に行きました。だから、お父さんの記憶はほとんどありません。私の中のお父さんは、お母さんやおばあちゃんやおじいちゃんなど、私の周りにお父さんのことを知っている人から教えてもらったものばかりです。その話を聞いて、私はお父さんのことをやさしい人だと思っています。

4年生の父の日の前に、児童クラブでお父さんの絵を描く時間がありました。私は最初、今のお父さんが分からないので描くかどうか迷いました。でも、写真とみんなの話を思い出しながらお父さんの絵を描くことにしました。私が絵を描いている時、友達が変だと言ってきました。絵はできあがったけれど、とても悲しくてだれにも見せたくありませんでした。お母さんにも見せたくありませんでした。でも、お母さんが見たいと言うので私はしぶしぶ見せました。お母さんは私の絵を見て、「すごい！ これぼうし！」と聞いてきました。私は「うん」と答えました。するとお母さんは、「お父さん毎日ぼうしかぶったんよ」と言いました。本当のお父さんと私の頭の中のお父さんが同じで、私はとってもうれしかったです。お父さんはきっと私のそばにいます。

# 優 秀 賞

## 私の弟

翠小学校 6年 いとう のぞみ  
伊藤 希 さん

私の三つ下の弟は、東京で生まれた。弟が生まれてから、私たち家族は、東京から愛媛に移住した。私は、新しい環境になかなかなじめずにいた。両親は、初めての自営業に奮とうしながら、幼い弟の世話を忙しく、兄や姉も学校に慣れるのに必死で、私は一人ぼっちのような気分だった。

弟が少し大きくなり、私が弟の面倒をみることになった。弟はやんちゃで、壁に落書きをしたり、兄のベッドの上でぴょんぴょんと跳ねたりと、面倒をみるのは大変だった。弟が何かをすると、すぐに私が怒られた。そんなことが不満だったけれど、弟は、私が一人のときもいつもそばにいてくれた。

弟が立派な一年生になれるように、私は、えん筆の持ち方や、ひらがなの書き方などを教えた。弟に「ありがとう」と言われたとき、「言葉をおぼえてくれたのだ」と思ったのと同時に、とてもうれしくなった。弟のおかげで私が一人でいる時間がなくなり、もう一人ぼっちじゃないんだと思えるようになった。

弟は、わたしのことを「お姉ちゃん」ではなく、「のぞみ」と呼ぶ。なんだか兄弟というより、同士のようだ。これからも、家族と協力して弟の成長を見守っていきたい。

## 優 秀 賞

# おじいちゃん、おばあちゃんへの感謝

佐礼谷小学校 6年 じょうやま しん  
城山 信 さん

ぼくは、学校から帰るとき、おばあちゃんにいつもむかえに来てもらっています。平日は、仕事もあって夕食の準備もしないといけないのに、いつもむかえに来てくれます。ぼくが学校から帰ったら、飲み物やアイスを買ってくれています。とてもうれしいです。母はおそくまで仕事をしているので、おばあちゃんが夕食も作ってくれます。毎日仕事があって、家の畑の管理もしないといけないのに、ぼくたちのためにととてもすごいなと思います。ぼくが学校にいる間には、食器を洗ってくれていて、見ていないところでもたくさんがんばってくれていると知りました。

おじいちゃんは、夏休みに家に様子を見にきてくれます。ときどきトイレがつまったときは、いつも家になおしにきてくれたり、家のドアの音がうるさくなったときにもなおしてくれたり、とてもすごいと思います。夏休みに家で流しそうめんをするときにも、竹をとってきて手作りで流しそうめんのコースを作ってくれていてとてもすごいと思います。

ぼくは二人に感謝の言葉を言ったことがないので改めてありがたうを言いたいと思いました。ぼくも二人のために何か手伝えることを見付けたいです。

## 優 秀 賞

# 天国に行ったおじいちゃん

松前小学校 6年 ふくだ こう 福田 晃 さん

6月4日に、おじいちゃんが天国へ旅立ちました。

ぼくの父の方のおじいちゃんが、なくなってしまいました。おじいちゃん、おばあちゃんの家に行ったら、やさしくしゃべってくれたり、いろんな物を買ってくれたりしました。

「アイス食べる？」や「お菓子食べていいよ」と言ってくれたり、とてもやさしいおじいちゃんでした。

いっしょに山を散歩したりして、山に生えている木の名前や、葉っぱの名前、いろんなことを教えてもらいました。

ぼくがいとこといっしょに、おじいちゃん、おばあちゃんの家におとまりしに行ったときは、いっしょにトランプしたり、テレビを見たり、ごはんを食べたりしました。

おじいちゃんに、ほめられたこともあったし、おこられたことも、教えてもらったり、教えてあげたり、いろんなことをしておじいちゃんとの大切な時間を過ごしました。

おじいちゃんは、ネコをかっていました。「ジジ」という名前で黒ネコでした。いっしょにエサをあげたりしました。

おじいちゃんのことを、一生忘れません。

## 優 秀 賞

# 本当の気持ち

港南中学校 1年 おかい あやね  
岡井 絢音 さん

家族の大切さを実感していますか？ 私は、家族というものの大切さを考えてみました。

親や親戚など、私は大切な家族に支えられて生きています。特に両親は、家事をしてくれたり遊びに連れていってくれたり。でも、素直に「ありがとう」が言えません。ありがとうは、人に言うのも言われるのも嬉しいけど、なんか恥ずかしい感じがします。でも、だからこそ私は「ありがとう」と言いたいです。

ある時、友達とトラブルがありました。でもすぐに「ごめんなさい」が言えませんでした。結局、友達の家まで親と行って、一緒に謝ってくれました。その時、一人だったら勇気がなくてずっとそのままだったかもしれないけど、親がいたから謝れたので、そこで「家族がいて良かったな」と改めて実感しました。

「もし家族が急にいなくなったら」と思うと、涙が瞼の奥からじわーんとでてきます。

けんかしたり、一緒にいるのがいやになったりする時があるかもしれませんが。でも家族は世界でたった一つの家族です。だから、ずっと仲良しでいたいです。世界でたった一人の私の家族。

## 優 秀 賞

# 家族で過ごす正月

伊予中学校 1年 たなか 田中 あや 綺 さん

正月にはいつも祖父母の家で集まって新年を過ごします。ふだん料理をしない祖父が、もちの入ったみそ汁を作ってくれます。私が、

「じいちゃん、これめっちゃおいしい！」

と言うと、祖父は少してれくさそうに

「お～、よかった」

とかえしてくれます。そんな話がとびかい、その場のふんいきは祭りのようでいごこちが良くとても安心できます。

正月になると私たちこうれいの行事があります。もちつきです。もちつきにはおじも参戦し、よりにぎやかになります。まずはぜったいにもち米を食べます。それはそれはとってもおいしいです。私はたいてい父さんやおじがついてくれたもちを丸める係をしています。昔はそのために使う白い米が顔について、化粧をしたかのようになっていました。妹たちも顔が真っ白になり、だんご3兄弟のようになっていました。とてもいい思い出です。

こんな一日が毎年続いてほしいです。この思い出は私の一生の宝物であり、「家族がいて幸せだな」と思う一つの思い出です。

## 優 秀 賞

# 口では言えないけど…。

伊予中学校 2年 いけうち ゆい 池内 結 さん

私の母はすごいです。他のどの家庭のお母さんよりも元気だと思います。家事はもちろん、学校のPTA役員や部活動のコーチ、姉の送迎や試合があると遠くまで行って応援します。私の家は三姉妹で、手のかかる娘が3人いるのですが、母は一人ひとりのためにいろんなことを両立してうごいてくれます。私はそんな母を尊敬しているし、感謝もしています。しかし、私も思春期の娘ですから、日頃私のために言っているとわかっていても口出ししてくる母に腹も立つし、部活動で結果を出して恩返ししようとしてもうまくいかず、なかなか感謝を伝えることができません。だから、最近私は母の手伝いをするようにしました。洗濯物を取り込んでたたんだり、何か頼まれた時にプラスαで「こうしたらもっといいかな」と思うことをしたり、日常のほんのささいなことだけど、少しでも母の助けになればと思います。そして、「ありがとう」や「さすがやね」とほめてくれた時は、恥ずかしさを感じると同時にたまらなくうれしいのです。今後、部活動での恩返しを目指して、手伝いも続けながらいつか、ちゃんと口で「いつもありがとう」と感謝の気持ちを母に伝えたいです。

## 優 秀 賞

# 家族の支え

松前中学校 2年 おがさわら さいか  
小笠原 彩椀 さん

私の家族はお母さん、お父さん、お兄ちゃん、私、妹の5人家族です。

私のお母さんは笑顔が大好きで、私たち3兄弟が喜ぶように何をしようか考えてくれる私たち思いのお母さんです。

お父さんは仕事でよく県外に行くので帰ってこないことが多いけど、帰ってきたらいろんな話をして必ず笑顔にしてくれます。

私はこんな家族と毎日楽しく過ごしています。でもそれはあたり前にいるわけではない家族がいるからです。家族がいないと私は学校に通って友達と楽しく話したり、授業を受けて勉強したりもできません。なので私は家族のおかげで毎日がとても楽しいです。私が病気になったときはそばにいて支えてくれるのも家族です。そんな家族は私にとってかけがえのない存在だし、この家族になれてとても幸せです。いつも家族には迷惑ばかりかけているかもしれないけど、家族にとっても自分は必要な存在になれるように、自分ができることは何事にも一生懸命頑張って日々の感謝の恩返しをしたいです。

あたり前ではない家族の支えや存在に感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切に過ごしたいと思います。

# 優 秀 賞

## 私の家族

岡田中学校 2年 おおにし 大西 ゆうな 悠生 さん

私には、一緒に暮らしている大切な家族がいます。

勉強や将来について教えてくれたり、時には厳しくしかってくれるお母さん、何事にも優しく対応してくれるお父さん、遊ぼうと言ったら一緒に遊んでくれる弟、家事を一生懸命してくれるおばあちゃん、畑仕事を頑張り、食べ物を作ってくれるおじいちゃん。

そんな家族がいるからこそ、今の私があります。いつもいつもそばで手助けをしてくれて、困っている時には手を差しのべてくれます。「いつもありがとう」と感謝を伝えたいです。わがままな私を受け止めて優しく接してくれてとてもうれしいです。この恩は、一生忘れず、自分が将来働き、稼いだお金でしっかり恩返ししてあげたいです。

家族の大切さを改めて感じ取ることができました。家族がいなかったら、ここまで成長することができなかつたし、頑張ることもできませんでした。家族がいてくれて本当に良かったです。

私の家族は自慢で世界に一つだけの一生の宝物です。そんな家族が私は大好きです。

## 優 秀 賞

# 家族の大切さ

松前中学校 3年 ひょうどう 兵頭 がくと 楽飛 さん

僕は、滅多に泣きません。そんな僕にも、大泣きしてしまったことがあります。それは、おじいちゃんが倒れて、救急車で運ばれてしまったことです。僕がたまたま両親と買い物に行っている時、おばあちゃんから電話があり、すぐ駆けつけました。そこには、しんどそうにしているおじいちゃんの姿がありました。いつも元気な笑顔を見せてくれるおじいちゃんのそんな姿は初めて見ました。僕は、不安や心配、焦り、色々な感情が混ざりあって、混乱して、泣いてしまいました。

その後、おじいちゃんは、しばらく入院しました。僕がお見舞いへ行くと、いつもどおりの優しい笑顔を見せてくれました。すごくほっとするとともに、この笑顔が当たり前ではないことを身に染みて感じました。そして、家族の大切さにも気付かされました。僕は、家族に対して、素っ気ない態度をとっています。基本的に自分の部屋で一人でいます。だけれど最近では、家族との何気ない会話や旅行などの時間は、貴重な時間なのではないか感じます。一緒に話せるのは今日で最後かもしれないと、自分に言い聞かせて、これからも一日一日の何気ない会話でも、大切にしていこうと思います。

## 優 秀 賞

# 自慢の母と祖母

双海中学校 3年 はまだ まりん  
濱田 真凜 さん

私の家は、とても賑やかだ。母が専業主婦で、6人家族の家事をまかっている。ある日、母がコロナウイルスに感染した。そこから、基本の家事は祖母が行ったが、六人分の家事を行うとなると大変なので、各自が自分のことは自分でしながら、できることを行った。一人分の家事を行うだけで疲労が溜まるのに、それ以上に回りのことも行うとなると目が回りそうだった。それと同時に、日頃の母の辛さを知った。今まで任せていた家事を6人分行き、常に家族を支えていた。その事実で胸がいっぱいになった。そして、そんな日々で母に代わって家事をしてくれた祖母。祖母は母が我が家を受け継ぐ前、6人家族であり、母と同じ環境だったため、毎日の母の気持ちがよく分かると言っていた。だから、母がいない分、そのころを思い出したかのように家を支えてくれた。母と祖母のありがたさを思い知らされたのだ。

現在は、母は回復し、いつもと変わらない日々が続いている。当たり前前の日常の裏には家族の苦労があることを忘れずに生きていこうと思う。そして、私も、母や祖母のように陰で家族を支える、立派な「お母さん」になりたいと思う。

## 優 秀 賞

# 家族の皆へ恩返し

港南中学校 2年      おか    そうた  
                                 岡    蒼汰    さん

僕は、中学校に上がる時引っ越しをしました。父と母は2人で訪問介護の仕事をしていて朝は5時に起き、夜は家に帰るのが9時を過ぎることもよくありました。家に父と母がいない時間も多かったので寂しい気持ちもありました。でも、おじいちゃんとおばあちゃんがいつもいてくれたので、ご飯や洗濯、お風呂など何不自由なく生活できていました。

このとき家族の誰か一人でも欠けていたら、僕はこんなに幸せに人生を送れなかったと思います。父と母が頑張ってくれていてくれたから、おじいちゃんとおばあちゃんがお世話をしてくれたから、今の自分があるんだと思います。引っ越ししてきてもう1年以上たちましたが、あの頃の僕は家族の皆に感謝の気持ちが全然足りていなかったなと思います。6人の生活から4人の生活になり、大変なこともいっぱいありました。でも家族で助け合い協力し合いながら楽しい日々が送れています。

今は少し父と母の仕事も落ち着きはじめていて、やっと父と母もゆっくりできる時間が取れるようになりました。今まで足りていなかった感謝をしっかりと恩返ししていきたいです。

## 優 秀 賞

# 僕にまた一つの宝物ができた

北伊予中学校 2年 ひょうどう りき  
兵藤 陸生 さん

今から1年前の7月26日、僕はまた一つの宝物ができた。それは弟が生まれたからである。僕には宝物がいっぱいある。家族、友達、ペットなどどれも大切な宝物だ。僕は弟がほしかったので、弟が生まれたときはとてもうれしかった。僕と弟の年齢の差は、13歳ですごくはなれている。でも、0歳からの成長を見れると思うと少しわくわくした。弟が生まれたときは夏休みだったから、いろいろなことができた。ミルクを飲ませたり、だっこをしたりした。それから数か月、僕は初めて赤ちゃんの成長が見れた。それは寝返りである。弟が寝返りした時はなんだかとてもうれしかった。ビデオを録ったりもした。それからまた数か月後には、ハイハイしたり、そのさらに1年後、弟の誕生日の日くらいにはもう普通に歩きはじめた。僕は1年経つとこんなにも成長するのだと思った。今現在ではあっち行こう、みたいな指さしをしたり、あれが欲しい、これが欲しいとぐずりはじめることも増えた。これも成長していることだと思う。僕は弟を一つの宝物として大切にしていき、守りながら、お世話をしていこうと思う。

# 人づくりによる国づくりをめざしています

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

## 思いやりの心

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

## 感謝の心

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

## 自立の心

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

愛媛伊予モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

モラロジー(moralogy)は、「道徳」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学術名で「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。